会報 絆（きずな）

発　行　公益社団法人
武蔵野市シルバー人材センター
編　集　会報等編集委員会
武蔵野市中町 3-5-16
電話　0422-55-1231㈹
URL　http://www.musashino-sc.or.jp/

198（秋）号　もくじ

■避難行動支援体制「安否確認コーディネーター」としてご協力をお願いします …… 1
■7月安全強化月間の報告 …… 2
■就業紹介 ～ふれあい訪問収集、施設管理～ …… 3
■武蔵野・ぶらり・時空旅 …… 4～6
■会員交流 …… 6
■わたしのふるさと …… 7
■むさしのSCトピックス …… 8
■新入会員、お亡くなりになった方、編集後記 …… 8

避難行動支援体制「安否確認コーディネーター」としてご協力をお願いします

事務局長　山中　洋次

～市で災害時の避難行動支援体制構築を検討～

平成27年9月理事会に、市役所防災課長ほか2名並びに地域支援課長から、避難行動支援体制へ協力依頼のため、安否確認コーディネーターについてご説明いただきました。以下内容を記します。

平成25年災害支援対策法が改正され、武蔵野市は、関係機関・団体・事業者等による委員会で、災害時の避難行動要支援者の支援体制構築について検討、平成27年1月「災害時避難行動支援体制検討委員会報告書」を作成しました。

この報告書を受けて防災計画で、シルバー人材センターと避難所運営組織は、安否確認コーディネーターの役割を担い、避難所で避難行動要支援者の安否確認チームの結成、及び確認の指示を行うとの位置づけがされようとしています。

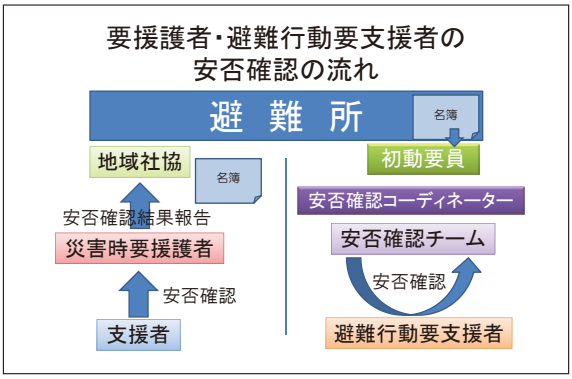
～安否確認コーディネーターの役割は？～

①初動要員(市職員)、地域社協、避難支援コーディネーターと接触
②安否確認チームの組織化（1組2人程度）
③初動要員から名簿、地図、安否確認チェックシートを受け取り、安否確認チームに渡す。
④安否確認結果の集約。結果を初動要員に報告。

避難支援が必要な場合は、避難支援コーディネーターに情報提供、とされています。

～シルバー人材センターの対応～

理事の方から、「地域では避難組織がしっかりできている。その中でセンターの余地はあるのか」「初動要員は何人いるのか。」など意見や質問が続々と出ましたが、理事会では「シルバー人材センターは、避難行動支援体制へ安否確認コーディネーターとして協力する」ことを承認する議決がなされました。



10月25日（日）総合防災訓練で、安否確認訓練が第一中学校避難所で初めて実施されます。この訓練に中町地区の会員の方に、仮の安否確認コーディネーターとしてご参加いただき、理事の方も見学します。

今後、各地区で理事の方を中心に、安否確認コーディネーターを複数名選出いただくこととしています。

～できる範囲でご協力を～

「安否確認コーディネーター」と聞くと、「重い責任を背負うのはちょっと…」と思われる会員の方もいらっしゃるかもしれません。しかしながら、市は「避難支援は、支援する側自らの安全の確保がなされた後の対応となります。避難支援活動の対応が遅れた場合、支援する側がその結果に対し責任を負うものではありません」としており、皆様のできる範囲での協力が求められていると考えてよいでしょう。また、この協力はセンターの「社会奉仕活動」「地域貢献活動」と位置付けられます。会員の皆様のご協力をよろしくお願いします

平成27年10月発行の「事務局だより」に、「いきいき支え合いヘルパー」の記事を掲載しています。そちらもぜひご覧ください。

活　動　報　告

安全管理委員長　船　戸　　勲

○会員向け自転車無料点検

平成27年7月1日センターの玄関において、恒例の会員向け自転車無料点検が実施され、合計23台の自転車が持ち込まれ点検を受けました。

その結果、タイヤの摩耗やブレーキ等の安全装置に不具合があったものが多く、その場で直せる簡易的なものは修理・調整を行い、タイヤの交換など別途費用の掛かるものは、後日個人で直していただくようにお願いしました。

○安全パトロールの実施

7月1日より平成27年度全国安全就業月間が実施されるのに伴い、当センターでも7月2日に合計4現場の安全パトロールが実施されました。植木班は低木の剪定を行っている現場がほとんどで、安全帯着用の必要はありませんでした。

○安全就業推進のつどい

7月14日に三鷹産業プラザにおいて、第5地域の安全管理委員対象の安全就業推進のつどいが行われました。財団のシルバー保険事業室・瀬戸氏による事故の未然防止ポイント集を使った安全就業に係る講演と、三鷹警察署の柴田交通課係長による、6月1日の法改正に伴う安全な自転車の乗り方についての講演がありました。

○安全リーダー研修

7月21日に国分寺の労政会館において財団主催の安全リーダー研修が行われました。財団の丸山指導員により平成26年度の事故発生状況のご説明があり、賠償責任事故は前年度比約28％減少したとご報告がありました。

○植木班・器財点検

7月29日に植木班による器財の点検が行われました。点検は数量チェックも兼ねて、部品の交換等も行い、器財の不具合から起こる事故を未然に防ぐように注意が払われていました。

就　業　紹　介

仕事に対する私の信条

学校開放施設管理　緑町　倉田　雄三

働く職場において〝いてもいなくてもいい〟存在ではなく必要不可欠な人材であると思われるよう日頃から努力しています。

油断や予断をせず巡回を着実にこなし、最後には消灯、施錠を見落としなく実施します。野球の投手に例えれば、登板日には毎回完全試合を目指しています。夏場になればエアコンの消し忘れや、扇風機がついたままなどのこともままあります。冬季には暖房器具にも気を配ります。五感を働かせて、空いている窓や扉がないか空気の流れを読んだりもします。

私が働いている中学校はＢ１から４Ｆまであって階段は80段にもなりますが、階段の昇り降りは薬だと思い、数えたことはありませんが、日に３回以上の巡回で、かなりの歩数を歩いていると思います、お陰様で足腰が鍛えられて健康でいられると、プラス思考でやっています。なかなか大変な責任を負った業務ですが楽しみもあります。

孫のような子どもたちと日常的に接していることで、若やいだ気分にさせてもらっています。また４Ｆの南側ベランダからは四季折々武蔵野の景色が一望できますし、空気がきれいになってきたのでしょうか、富士山にもたびたびお目にかかれます。南西方向にある市の体育館の左手に夕陽を浴びた美しい姿が、秋から冬にかけては特にくっきりと見えます。

春には校庭の周りに植えられた桜、さらにその向こうの陸上競技場の桜が満開になると目を見張るような景色になります。なまじ桜の名所といわれるところに出掛けるよりも見事な眺めになります。それを見ながらベランダで一杯というわけにはいかないのが残念ではありますが…。

桜が散ると景色が一変し、校庭の銀杏、松など目にも鮮やかな緑で埋め尽くされます。

こういった楽しみを糧に仕事に励んでいます。

ふれあい訪問収集 ＝担当者と同行して＝

境南町　江森壽見子

境南町のふれあい訪問収集は１丁目から５丁目までの８件を10名で担当しています。

訪問先は一軒家、アパートやマンションです。雨の激しい日には、急な外階段はすべらないように手すりをギュッと掴んで用心します。

担当する会員は、それぞれの都合や予定で、１人の方に固定の会員、２～３名でローテーションの会員があります。必要としているご利用者さんは増えているはずなのですが、追加の依頼はありません。訪問先が増えることを希望しています。

訪問先によっては、ごみの種類別に容器が用意されていたり、ヘルパーさんが予め整理してくださっているお宅もあれば、玄関先に無造作に出しているお宅もあります。風の強い日には転がっている時もありました。

月末は夕方５時30分に境南コミセンに集合し、打ち合わせを行います。事例報告と就業報告書をまとめ、翌月の就業報告書を配ると、今度は会員同士の「ふれあい」が始まるのです。楽しい語らいとカラオケを楽しみます。

わたしたちは「ふれあい訪問収集」に責任を持ち、思いやりといつも笑顔で訪問し、これからも頑張ります。

絆では武蔵野市内の明治、大正、昭和初期の写真を探しています。お持ちの方お貸しいただけませんか。
写真は責任を持って必ずお返しいたします。よろしくお願いします。

武蔵野・ぶらり・時空旅 5

吉祥寺北町　下谷　一廣

今回は江戸時代中期から幕末にかけて吉祥寺村・西窪村に暮らした農民の暮らしついて書いてみたいと思います。その前提として一つ二つ。

(新田開発と検地)

徳川３代将軍・家光の頃から幕府は積極的に新田開発に取り組みます。その頃（寛永から明暦、1624 年～ 1657 年）江戸では大火が頻発します。特に明暦の大火は江戸の町ほとんどが焼け野原になるほどのものでした。言葉は悪いですが、幕府は一連の大火を最大限に利用しました、江戸の中心部に密集していた小作農、職人、小商いの住居・土地を取り上げ、火除地（ひよけち）や武家地としました。焼け出された庶民には江戸近郊の土地を振り当て新田開発に従事させることにしました。まさにこれが吉祥寺村や西窪村の成立となるのです。

ただ振り当てた土地は幕府の直轄領や札野（ふだの）でした。札野というのは幕府御用の萱など刈るために高札を立て、立ち入りを禁止していた場所で、ほとんど人の手の入っていない荒れ地ばかりでした。今ではこんな強引なことはできないでしょうが、時は江戸時代だったのです。

新田開発があれば当然租税を課すために検地が行われます。

寛文（1661 ～ 1670 ）年間は、類を見ないほどの検地ラッシュで江戸近郊をはじめ全国的に実施されました。それだけこの時期に新田が開発されたわけです。吉祥寺村も寛文４年に検地され、村高 808 石余、反別 329 町余、家数 64 軒とされました。当時の村の様子は五日市街道を挟んで短冊形に仕切られ、各戸対して均等に分けられました。

(吉祥寺村の住人は大地主？)

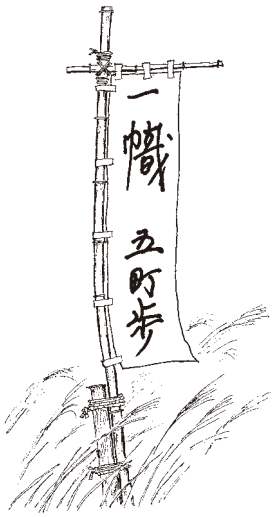


イラスト　　平岡　伸三

上記の数字から一軒あたり約五町歩の土地を保有していたことになります。

残っている当時の検地帳をみても確かにどの家も、間口 20 間で街道に面して屋敷、上畑、中畑、下畑の順になっており、奥行きは約 700 間余となっています。

この長細い短冊形の土地を通称一幟（ひとのぼり）と呼んでいました。

現在の武蔵野市の地図を見ても五日市街道から 20 間おきに南北に細い道が何本も通っています。宮本小路、青葉小路、月見小路などといった名前が現在ついていますが、お隣との境界を示す小道の名残でしょう。

この一幟は約５町歩(5ha)　15,000 坪です。ちなみに東京ドームが約 14,000 坪（46,755 ㎡）ですから吉祥寺村には大地主が 64 軒あったわけです。屋敷と耕作地を比べるのはナンセンスだと思いますが、大名で老中首座であった堀田正睦の屋敷が 8,000 坪、10 万～ 15 万石の大名の屋敷が 7,200 坪ぐらいでしたから。

吉祥寺村住人の所有する土地は何とも広い。しかしながらこの一幟の土地、地味も悪くまともな穀物が育たない、ススキや萱の生い茂る土地で水利も悪かったので大変な暮らしでした。えらいところに来てしまったというのが移住して来た人々の実感だったでしょう。なにしろ米ができるような土地ではなかったのですから・・・。

普通五反（1,500 坪）の水田があればカツカツの暮らしができたようですが、ここでは夜が明け

る前から働いて、月明かりで手元が見えなくなるまで働き、草鞋（わらじ）を履いたまま寝てまた働くといった暮らしが続きました。

（五反百姓）

五反の水田があればと書きましたが貧乏百姓の代名詞として使われていたようです。「ことわざ辞典」臼田甚五郎著に「五反百姓出ず入らず」とあって五反歩の耕地を持っている百姓は金が残りもせず借金もせず、内輪の手で足りトントンの暮らしと解説されています。

それに比べて吉祥寺村・西窪村では10倍の土地がありましたが一家総出で耕しても1町歩の畑を維持するのも大変でした。必死の思いで麦、稗（ひえ）、粟、野菜などを作っていました。参考までに練馬あたりの中流の農家は5人家族で水田1町歩、畑5反で米が20石、麦6石、大根2万5千本といった具合でまずまずの暮らしができていました。

（度量衡）

広さの単位がいろいろ出てきて紛らわしいので少し整理しておきます。

1反＝３００坪≒９９０㎡

1町歩＝１０反＝3,０００坪≒1ha

大雑把に言って、1反の水田で1石の米が獲れ、大人一人が一年間で食べる量が約1石＝10斗＝100升というわけです。

（富める者、貧するもの　貨幣経済の浸透）

徳川5代綱吉（1680～1709）のころから貨幣経済の波が近郊の農村にも押し寄せてきます。痩せた土地で作物を作るためには大量の肥料などを購入しなくてはならない。この肥料代が下肥とか干鰯（ほしか）ですがバカにできない費用でした。麦、稗、粟に加えて換金性の高い野菜（独活（うど）、菜種、蕎麦、大根、荏胡麻（えごま））を作り、江戸へと売りに出掛けるようになり江戸の商人との関係を深めてゆく人も出てきます。なかでも独活は高級食材として高値で取引されたようです。穀物や野菜のほかにも、当時の資料の「男女農間之稼（だんじょのうかん の かせぎ）」に「男ハ薪を取、藁縄ヲなひ、粗朶（ソダ）ヲ拵（こしらえ）　女ハ木綿機織り、縫い付き指物仕候」などと書かれていてこういったものを江戸へ運び換金していたわけです。

一幟（五町歩）を手に入れた64家であるが、貨幣経済の波に上手く乗った者。その一方で波に乗り損ない呑込まれてしまった人達がいて、江戸中期から幕末にかけて階層が分化していく。街道沿いで商いや質屋、味噌醤油業を営む者などが出てくる一方、土地を手放し小作人になってしまう

吉祥寺北町　田中政伯家のうどの室

うど

人や、生活苦から村を欠落(かけおち)ちする人たちも出てきたのです。

でも考えてみるにこれはいつの時代にもあることですネ。

最後に五日市街道を起点に南北に延びる小路を一幟を感じながらぐるりと歩いてみるのは如何でしょうか。さらにもう一つ私見ですが現在・武蔵野市全体の面積は 1,098ha 耕地面積は約 33ha と聞いています。江戸時代、吉祥寺村だけで330ha あった耕地面積がその 10 分の 1 になってしまいました。これ以上農地が減ってほしくないと思っております。

＊参考資料：

「江戸農民の暮らしと人生」速水融著、「地名で読む江戸の町」

大石学著、「武蔵野市史」、「連続歴史講演会録」武蔵野市教育委員会編

かやぶき屋根

農家の様子

会員交流 ページの一時休止について

残念なお知らせです。

会報「絆」の184号(平成24年4月20日号)から始まった会員交流ページを一時休止とさせていただきます。

カラオケ会、おしゃべり会、散歩会、書道会など毎回ご参加いただき、各号楽しみにされていた方々には誠に申し訳ございません。正確な数字ではありませんが、この3年半の参加者は延べ550名程となっていますが、参加される方はほぼ毎回同じ顔ぶれで新規に参加される方への拡大が進みません。また、各種の会を主催いただく方の負担も大きく、苦労の割に“達成感・満足感”が得られないというのも一時休止の要因です。

今後のこの種の催しは、サークル化として検討していきたいと考えております。すなわち、書道会は教授方2名を含め8名の会員で規約作り、展示会への出品計画など準備段階です。カラオケ会は3地区（中央・西久保・境南）の定期的参加者を中心にしたサークル立上げが可能かどうかを検討していきます。そのほか、おしゃべり会、散歩会も参加者のご希望をお聞きして形にしていきたいと思います。

会員交流の各回ご案内で申し述べておりますが、武蔵野市シルバー人材センターをよりよく発展させるには、会員同士が知り合い、気軽に本音で話し合える“場”が必要と考えています。「自主・自立」の組織理念に基づく行動が大切です。

今回のご案内に対する会員皆様のご意見を是非「広報編集委員会」までお知らせください。みなさまのご意見を集約し、会員交流が再開できることを楽しみにしています。

私のふるさと

――第９回　福井県若狭町――

境南町　杉　井　由　雄

★当センターの古参会員である杉井さんの出身地は福井県の西部、若狭湾の中央あたりから４里ほど内陸に入った小盆地である。生まれた当時は福井県遠敷郡瓜生村末野、現在は平成17年に生まれた三方上中郡若狭町の一部となっている。小浜市の南東に位置する、昔も今も農業の地だ。

●私は大正15年10月の生まれですから、満89歳になりました。生まれたのは若狭の小さな盆地の村です。粘土質の土壌で、奈良時代から平安時代にかけては窯業が栄えていたようです。今でも多くの窯跡群が残っています。海は北の方にあり、小高い山に登れば若狭湾が遠望できました。村は純農村で私の生家も米作農家でした。３人兄弟の末っ子で５歳上の兄と、２歳上の姉がいました。小学校は家から３キロほどの距離にあり、黒い肩掛けカバンで通学しました。１学年１学級で49人。男子27人、女子22人のクラスでした。

★若狭の国の小さな村で育った杉井少年は、いったいどんな遊びをしていたのだろう。

●子供の頃の一番の楽しみは、田んぼの用水路での魚釣りでした。おじさんの持ち山から竹を伐り出して釣り竿を作り、鈎やテグスなどは学校帰りに隣村の雑貨屋で買いました。餌は自分でミミズを捕りました。イワシによく似た体長30センチくらいの魚がよく釣れました。（聞き手注：おそらくはウグイと思われる）釣った魚は家族のおかずになりました。釣り以外にはメンコ、釘刺しなどの遊びもよくしました。

私が子供の頃の若狭はたくさん雪が降りました。多い時は２メートルも積ったので、よく竹スキーをしました。釣り竿と同じく山から伐り出した竹に、かまぼこ板の足台を乗せました。ストックは細い竹で、針金で編んだ輪をつけました。仲間たちで山道を踏み固めてゲレンデを作ったのでした。

★杉井さんが子供の頃、若狭の農村ではどんな物を食べていたのだろうか。

●格別珍しい郷土食を食べていたわけではありません。自分の畑で作った野菜が中心の食生活でした。また若狭湾の漁師のおかみさんが、毎朝魚を行商に来ました。天秤棒を担いで、新鮮なアジやサバを運んできたのです。ですから、山里とはいえおいしい魚が食べられました。また正月には母の実家と共同で、自家製もち米をつきました。

★楽しい少年時代だったが、小学校５年生の時、杉井少年に不幸が訪れる。お父さんが43歳で風邪をこじらせ急逝したのである。農家の大黒柱がいなくなったのだから、残された家族にかかる負担はとてつもないものになった。その３年後の昭和16年の秋、今度はお母さんが癌で世を去る。３人兄弟は十代で両親を失ってしまったのである。

●小学校卒業後、青年学校に入学しました。一般教科も多少ありましたが、授業のほとんどが厳しい軍事訓練でした。徴兵された兄は、昭和19年９月にビルマで戦死しました。まだ19歳でした。遺骨もなく、届けられた箱には位牌もどきの名前が書かれた板切れが入っていただけでした。

昭和20年５月１日、私にも召集令状が来て、敦賀にあった陸軍歩兵第19連隊に入営しました。ひと月後、岡山県日本平にある演習場で過ごしたあと、鹿児島県出水に駐屯しました。本土決戦に備えるという名目でしたが、実際には何の準備もせず、海岸線には大砲１門備えられませんでした。軍部はこの時すでに、沖縄を捨て石にすると決めていたのでしょう。そして８月15日に敗戦。３か月の軍隊生活でした。

帰郷して農業を再開しましたが、昭和28年、田畑を親類にまかせて単身上京しました。そして繊維関係の仕事につき、所帯も持ち60歳の定年まで働きました。車の運転が好きで、80歳までは自宅から故郷までノンストップ運転で行ったりもしました。今は運転もやめて静かに暮しています。

（聞き手　編集部遠藤）

カラオケを楽しむ杉井会員

むさしのSCトピックス

7/15　手芸小物班の講習会
8/ 5　むさしの商工会でビジネスチャンスの夕べ
9/14・15　介護予防・日常生活支援「いきいき支え合いヘルパー事業」説明会
9/15　産前・産後ヘルパー講習会
9/16　第5地域役員研修会
9/29　スマートホン講習会
9/30　安全大会

スマートホン講習会

手芸小物班の講習会

ご存知ですか？

シルバーの日 ～10月の第3金曜日～

東京都シルバー人材センター連合(以下、連合)では、10月を「広報活動強化月間」とし、10月の第3金曜日を「シルバーの日」と定めています。10月には各地域のシルバー人材センターでは、センターフェアやボランティア活動が行われ、地域の皆様にシルバー人材センターを知っていただこうと活動しています。10月には連合の入っている千代田区飯田橋の「東京しごとセンター」1階に特設展示コーナーを設け、就業、研修会や、ボランティア活動を行っている会員さんの様子を写真にて展示しています。併せて、センターの特色についても紹介されています。お近くへお越の際は、ぜひお立ち寄りください。

編　集　後　記

今年の夏は、政治も天候もご乱心気味でしたが、ようやく秋の気配が深まってきたようです。しかし近年になく強力なエルニーニョ現象がこれからの天候にどんな影響を及ぼすことかと多少心配しております。

私事で恐縮ですが、何とか毎日せめて体だけは元気でいたいと思い、市の体育館通いを続けております。週に2回行くか行かないかの不熱心な会員ですが、行けばストレッチからマシーンを使った筋トレ（できるだけ様々な筋肉を活性化するように)、有酸素運動の自転車漕ぎなどで小一時間頑張ります。年寄りの冷や水などと言われたりもしますが、運動後の爽快感・体全体の血流のよみがえり感は何とも言えず夜もぐっすりといいことずくめです。家から出掛けるまでは億劫で逡巡しますが、やり始めてしまえばもう大丈夫！体育館にはトレーナーもいていろいろ相談にも乗ってくれます。

厳しい冬に向かって皆様も体育館に出掛けてみては如何でしょう。　（下谷）